

平成 29 年度
横須賀美術館 活動状況中間報告書

～より多くの方に愛される美術館に～

平成 29 年（2017 年）10 月

横須賀美術館

横須賀美術館 開館 10 周年記念企画

開館 10 周年を記念して横須賀美術館では、感謝の気持ちを込めまして、皆様により一層親しんでいただくために、展覧会やコンサートや各種イベントを計画しています。

◆ 展覧会

企画展 : 開館 10 周年記念 美術でめぐる日本の海

開催期間 7 月 8 日～8 月 27 日

所蔵品展 : みんなが選んだベスト・コレクション

開催期間 4 月 15 日～7 月 9 日

: ボランティアが選んだ朝井閑右衛門

開催期間 7 月 15 日～10 月 1 日

谷内六郎館 : みんなが選んだ谷内六郎

開催期間 10 月 7 日～12 月 17 日

◆ コンサート

横須賀芸術劇場少年少女合唱団コンサート

開催日 4 月 29 日 参加者 240 人

横須賀ゆかりのアーティストを招いてのコンサート

開催日 2 月 17 日予定

◆ イベント

美術館ボランティア・すかび隊 10 周年記念イベント

「ぐるぐる 10 (てん)」

開催日 4 月 30 日

横須賀美術館開館 10 周年パネル展示

開催日 4 月 28 日～8 月 27 日

10 周年記念レゴ®ブロックモザイクアート展示

開催日 4 月 28 日～6 月 25 日

美術館で展示後、北図書館、中央図書館で展示。市庁舎での展示も予定。

◆ プレゼント企画

所蔵品展ポストカードプレゼント

配布日 4 月 15 日～4 月 16 日

先着 250 名様に所蔵品のポストカードセットをプレゼント

オリジナルグッズプレゼント

配布日 4 月 28 日～5 月 7 日

先着 300 名様にメモパッドまたはジップケース 1 個をプレゼント

10 周年記念限定オリジナルバッグプレゼント

伊藤久三郎展期間中に配布予定

I 美術を通じた交流を促進する

① 広く認知され、多くの人にとって横須賀市を訪れる契機となる。

【事業計画】

1 展覧会の実施

「広く認知され、多くの人にとって横須賀市を訪れる契機となる。」ための事業の要は企画展です。今年度も、社会教育施設としての役割と交流拠点としての役割を認識し、バランスを考慮した企画展を実施します。

【展覧会及び観覧者数】(9月末現在)

展覧会名	会期	見込	実績	達成率
横須賀ゆかりの友禅作家 中村光哉展	4/1-4/16	2,000	2,672	133.60%
デンマーク・デザイン	4/28-6/25	18,000	19,175	106.53%
美術でめぐる日本の海	7/8-8/27	24,000	17,634	73.45%
ぼくとわたしとみんなの tupea tupera 絵本の世界展	9/9-11/5	25,000	14,743	58.9%
没後40年 伊藤久三郎展	11/18-12/24	7,000	—	—
第70回児童生徒造形作品展	1/11-1/29	13,000	—	—
青山義雄展 きらめく航跡をたどる	2/10-3/31	10,000	—	—
所蔵品展のみの期間	上記以外	6,000	3,814	44.75%
計		105,000	58,031	55.27%

※tupea tupera 展は9月末までの実績を記載

2 広報・集客促進事業

展覧会、イベント、ロケーションなど横須賀美術館の魅力をフル活用し、横須賀の交流拠点として集客に取り組んでいきます。そのために、企画展情報だけでなく、美術館の総合的な魅力や外部との連携による地域情報を積極的に発信していきます。29年度は開館10周年にあたることから、10周年記念コンサートや記念グッズのプレゼント企画等の集客につながる関連イベントを予定しています。

(1) 訴求活動による集客促進

- ・パブリシティを期待した新聞、雑誌等への展覧会リリース

⇒展覧会毎に発送 1展覧会につき約350件

(このほか学校等施設へのちらしの送付 約1,500件)

⇒取り扱い件数

「デンマーク・デザイン 32件」

テレビ2件、ラジオ2件、新聞9件、雑誌13件、その他6件

「美術でめぐる日本の海 24件」

テレビ1件、新聞8件、雑誌10件、その他5件

「ぼくとわたしとみんなの tupea tupera 絵本の世界展 19件」

ラジオ1件、新聞6件、雑誌11件、その他1件

- ・広報よこすか等他部局の広報媒体を活用した情報発信
 - ⇒広報よこすかに毎月掲載（展覧会やワークショップなどの情報）、
横須賀市ツイッター（フォロワー数約 13,843 人）への情報発信依頼
yokosuka ほっとナビ（市広報番組：JCOM）、
What's New in Yokosuka（国際交流課外国人向け広報紙）
横須賀中央駅前デジタルサイネージ（観光企画課媒体）
- ・公共交通機関への広告掲出
 - （駅貼 2 週間、窓上 1 か所、デジタルサイネージ 1 週間）
 - ⇒京急線 窓上、駅貼り（企画展毎に掲出）、
京王線 駅貼り（デンマーク展、日本の海展、tupera 展）
東急東横線 窓上（tupera 展）
横浜駅ポスター駅貼り(B0ポスター8枚メガセット)掲出（日本の海展）
京浜急行横浜駅デジタルサイネージ（tupera 展）
- ・ホームページ、ツイッター、フェイスブックを活用した情報発信
 - ⇒ホームページでの情報発信（展覧会、イベントなどの）
 - ⇒ツイッターでの情報発信（展覧会情報や美術館周辺情報など）
 - ★ツイート数=約 3,279 件 ★フォロワー数=約 8,889 人 9 月末現在
 - ツイッターは情報の拡散に長所があるため、展覧会やイベント情報の周知に活用しています。フォロワーは着実に増加し、9 月末現在約 8,889 人となっています。
 - 今後も展覧会情報に加えて、周辺情報などフォロワーに面白いと思ってもらえる情報を発信していきます。
 - ⇒フェイスブックでの情報発信
 - ★横須賀美術館 FB「いいね」数=1,742 人、チェックイン 1,609 件
 - ★谷内六郎館 FB「いいね」数=215 人、チェックイン=17 件
 - ツイッターとは異なり、長文が投稿できるため、展覧会やイベント情報の周知だけでなく、ユーザー同士の交流の場にもなっています。
 - 今年度は、「tupera 展」において SNS のかなりの投稿がありました。
 - 今後も SNS 毎の特性を生かした情報発信に努めていきます。
- ・インバウンド推進のための外国語情報発信の拡充
 - ⇒英語版の展覧会情報を毎回 HP に掲載
 - 外国人観覧者数（9 月末）
 - ★西洋系=321 人 ★東洋系=427 人 ★その他=31 人

(2) イベント開催など展覧会以外の要因で利用者を増やす取り組みの推進

- ・コンサート等、各種イベントの開催
 - ⇒開館 10 周年記念横須賀芸術劇場少年少女合唱団コンサート（4/29 開催）
クリスマスコンサート（12/17 開催予定）
開館 10 周年記念コンサート（2/17 開催予定）
マジックワークショップ（3 月開催予定）

- ・年間パスポート、前売券の販売
⇒販売枚数と利用回数（9月末現在）

	販売場所	販売枚数	利用回数
パスポート	美術館	305 枚	1,136 回
	芸術劇場	29 枚	
	計	334 枚	
前売り券	美術館	42 枚	125 回
	芸術劇場	140 枚	
	計	182 枚	

(3) 外部連携による集客推進

①他部局との連携

- ・カレーフェスティバルなどイベント参加による情報発信
⇒カレーフェスティバル（6/3-4）や産業まつり（11/11/11-12）などへの協賛
- ・ヨコスカサークルバスへの参加など米海軍横須賀基地在住者への誘致
⇒ヨコスカサークルバス事業（ベース向け無料観光バス）10/17,10/21 予定
⇒国際交流課や、観光企画課が発行するパンフレットをとおして米海軍横須賀基地へのPRを行っている。
- ・ふるさと納税事業への参加
⇒財政課が推進する「ふるさと納税事業」の中で、当館の観覧券とアクアマールのお食事券をセットにした商品を提供

②民間事業者との連携

- ・民間事業者との広報協力、イベント参加による情報発信
⇒タイアップメニュー（アクアマール、観音崎京急ホテル、）
⇒市内ベーカリーとのタイアップ（デンマーク展において市内ベーカリーとデンマークゆかりのパンでタイアップ）
⇒広報協力（観音崎京急ホテル、ソレイユの丘、うらり、すかなごっそ ほか）
⇒各種学園祭等のイベント協力によるPR
日本大学学園祭（法桜祭 11/3-5）、
立正大学学園祭（橘花祭 11/3-5、星霜祭 11/3-5）
慶應義塾大学学園祭（矢上祭 10/7-8）
聖心女子大学学園祭（聖心祭 10/21-22）
早稲田大学学園祭（理工祭 11/4-5）
フェリス女子学院学園祭（FerrisFestival 11/3-4）
高千穂大学学園祭（高千穂祭 10/20-22）
- ・福利厚生団体等との割引施設契約の実施
⇒JAF、JTBベネフィット、リロクラブ、神奈川県厚生福利振興会
神奈川県市町村職員共済組合 など
⇒京浜急行の発行するよこすか満喫きっぷへの参加
7/15～9/30（76日間）までで利用枚数 647 枚

③近隣地域との連携

- ・町内清掃、防犯パトロールなど地域活動への参加
⇒町内清掃などの地域活動への参加や町内会での美術館PR
- ・観覧ツアーなど美術館活動による交流の実施
- ・観音崎全体の魅力を向上させるためのイベントの開催
⇒観音崎フェスタへのブース出店(11/3予定)
- ・地域での消費活動を促進する取り組みの検討
⇒繁忙期、近隣事業者の美術館への出店(GW、夏休み期間、無料デー等)

(4) 団体集客の推進

- ・市内民間事業者と連携した企画(ツアープランなど)の検討、提案
⇒検討中
- ・旅行会社への団体ツアーの企画提案、誘致
⇒旅行事業者営業訪問(クラブツーリズム、京王観光、小田急トラベル、四季の旅)
⇒募集型企画旅行による観覧者は以前と比べると減少しています。今後は、旅行事業者へ地道な営業活動を継続しながら、新たな団体集客のための方策を検討していきます。
- ・ウェルカムトークの実施
⇒原則ガイダンスは学芸員が対応しているが、広報担当により場合によって行っている。

(5) 商業撮影の受入と誘致

- ・ドラマや映画、雑誌等の商業撮影の受入
- ・撮影者側のニーズに対応した誘致の実施
⇒今後も当館のPRに繋がる撮影については積極的に受け入れていきたいと考えています。

【達成目標】 年間観覧者数 100,000人以上

[目標設定の理由]

- ・「横須賀市立美術館基本計画」(平成12年6月策定)では、他の公立美術館の実績を参考に、施設の規模、本市の人口などから年間観覧者数を10万人と推定し、開館後の実績としても初年度を除き10万人前後で推移しています。
- ・そのため当館では、まず観覧者目標を10万人以上とし、展覧会内容のバランスを考えながら展覧会を決定しています。
- ・一方、観覧者の見込み数は、展覧会ごとの開催時期や過去に開催したターゲットの近い展覧会の実績などを勘案し算定しています。

年間観覧者見込みに対する達成状況

(単位：人)

	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度 (9 月末現在)
見込み (A)	104,000	109,000	105,000
実績 (B)	114,861	108,413	58,031
達成率 (B/A×100)	110.4%	99.46%	55.27%

【実施目標】

- ・ 様々な広報媒体の特性を生かして、効果的な広報活動を実施し、交流を促進する。
- ・ 各種イベントを開催し、展覧会以外の要因での利用を増やす。
- ・ 外部連携を推進し、様々な機会と場所を捉えて、美術館の情報を発信する。
- ・ 旅行会社などへの働きかけを通じて、団体集客を促進する。
- ・ 商業撮影の受入と誘致を推進し、美術館のイメージアップを図る。

[目標設定の理由]

- ・ 横須賀美術館は、本市の貴重な都市資源であり、これを有効活用することは、本市のシティセールスや交流都市の推進という観点からも重要になります。
- ・ 市内外に積極的に情報を発信して広い層に魅力をアピールすることで知名度や認知度を向上させていくことが必要と考え、実施目標として設定します。
- ・ 広報、パブリシティ活動にあたっては、当館の利用者層や展覧会ごとのターゲット層に応じた効果的な広報を実施します。
- ・ そのために、様々な広報媒体をその特性を踏まえて効果的に活用し、特に若い世代に対しては積極的にツイッターなどの SNS を活用していきます。

1 パブリシティによる取り扱い件数

(単位：件)

	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度 (9 月末現在)
新聞	63	53	52	37
雑誌	85	55	64	53
Web	34	26	11	4
フリーペーパー	62	57	42	20
書籍	7	4	5	0
会報誌	8	8	4	0
TV	16	12	13	6
ラジオ	6	6	3	4
その他	4	6	1	2
合計	285	227	195	126

2 美術館公式ツイッターのフォロワー数等の実績（年度末）

（単位：件）

	H26	H27	H28	H29（9月末現在）
フォロワー数	2,338	4,054	8,303	8,889

※ 1週間毎にフォロワー数を記録しているため、毎年度3/31現在の数字ではありません。

3 募集型企画旅行による観覧数

	平成26年度		平成27年度		平成28年度		平成29年度 （9月末現在）	
	団体数	観覧者数	団体数	観覧者数	団体数	観覧者数	団体数	観覧者数
企画展	4	169	4	113	3	67	0	0
所蔵品展	61	2,968	0	0	12	458	5	213
合計	65	3,137	4	113	15	525	8	213

4 商業撮影の受け入れ件数

	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度 （9月末現在）
撮影件数(件)	45	33	15	14
使用料(円)	2,661,751	1,518,671	691,120	628,281

※ 平成26年度に多くの収入があったのは、新車の発表会による使用1回で、110万円以上（平成26年度1,112,928円）の収入があったためです。

② 市民に親しまれ、市民の交流、活動の拠点となる。

【事業計画】

美術館ボランティア活動の推進

ボランティアが美術館の活動を支援することで、自らのやりがいを見出し、市民の美術への親しみを増す一助となるとともに、市民の交流の場となることを目指し、ボランティア活動の推進を図ります。あわせて、ボランティア自身の美術への理解を深めるための育成を行います。

- (1) ギャラリートークボランティア 年 55 日
所蔵品展のギャラリートークを行います。(約 50 回)
*ボランティアの自主研修を補助します。(5 回)
⇒ 8 回の研修を行い、32 回のギャラリートークを実施しました。計 47 日、延べ 166 名が活動しています。
- (2) 小学生美術鑑賞会ボランティア 年 51 日
小学生美術鑑賞会で来館する小学 6 年生の受入れ、鑑賞補助をします。(約 46 回)
*企画展のレクチャーを実施します。(5 回)
⇒ 3 回の研修を行い、17 校の受入れに参加しました。計 19 日、延べ 75 名が活動しています。
- (3) みんなのアトリエボランティア 年 12 日程度
障害児向けワークショップ「みんなのアトリエ」の補助をします。
*ボランティアを募集します。
⇒ 6 回実施し、延べ 13 名が活動しています。
- (4) プロジェクトボランティア 年 30 日程度
ボランティアイベントの企画・準備・実施をします。
春にはプロジェクトボランティア結成 10 周年を記念したイベントを実施します。
時期：春、夏、冬の 3 回
*ボランティアを募集し、原則として毎月 2 回会議を行います。
⇒ 「ぐるぐる 10」(4 月 30 日)、「海の広場で水あそび」(8 月 20 日)を開催しました。現在は、12 月のクリスマスイベントの開催に向けて準備をしています。計 21 日、延べ 165 名が活動しています。
- (5) プロジェクト当日ボランティア 年 3 日程度
ボランティアイベント実施の補助をします。
⇒ イベント当日だけでなく、準備作業への参加を含め計 3 日、延べ 22 名が活動しています。

美術館ボランティアの活動日等一覧

	活動日	募集	研修	任期
(1)	GT:毎週日曜日 研修:日曜日	隔年4～5月 *29年度は 募集せず	年間5回	1年間(更新有)
(2)	6月～3月の平日 研修:木曜日	毎年4～5月 *29年度は 募集せず	年間5回	1年間(更新有)
(3)	毎月第3土曜日	随時	なし	1年間(更新有)
(4)	原則として毎月第2・4土曜 日、イベント準備日・開催日	随時	なし	1年間(更新有)
(5)	年3回	イベントごと	なし	イベント当日限り

【達成目標】 市民ボランティア協働事業への参加者数延べ 2,000 人
(事業ごとに加算。登録者・一般参加者を総合して)

[目標設定の理由]

- ・参加者数は「活動が活発に行われているか」「魅力的な活動を企画しているか」をはかるための指標の1つとなるものです。
- ・29年度は、ギャラリートークボランティア、小学生美術鑑賞会ボランティアともに新規募集を行わないため、研修の回数は28年度より少なくなります。
- ・みんなのアトリエボランティアの登録者数自体は増えていますが、アトリエ参加者の定員数に対し、ボランティアは2～3名と決まっているので、活動自体は横ばいとなっています。
- ・28年度は、クリスマス時期に屋外展示ができないため、特別に秋にハロウィンイベントを行い、1年間で4回のボランティアイベントを行いました。29年度は、秋にイベントを行わないため、イベント参加者数は少なくなります。
- ・年間の活動日数、ボランティアの参加状況、イベント参加者数の動向をふまえ、29年度の目標は、延べ2,000人とします。

市民ボランティア協働事業への延べ参加者数

(単位：人)

	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度 (9 月末現在)
ギャラリートークボランティア	323	284	334	166
小学生美術鑑賞会ボランティア	194	180	263	75
みんなのアトリエボランティア	28	20	34	13
ギャラリートーク参加者	345	274	371	219
プロジェクトボランティア	229	210	283	165
プロジェクト当日ボランティア	50	38	27	22
ボランティアイベント参加者	1,086	1,142	1,350	1,087
計	2,255	2,148	2,662	1,747

【実施目標】

- ・市民が美術館に親しみを感じ、訪れる機会をつくる。
- ・市民ボランティアが、やりがいを持っていきいきと活動できる場を提供する。

[目標設定の理由]

- ・市民感覚を持ったボランティアと協働することにより、市民にとって親しみやすい美術館により近づくことができます。また、美術館への親しみ、愛着を持ったボランティアの方々を架け橋として、より広い層の市民に美術館の魅力を知っていただく機会を増やしたいと考えています。
- ・横須賀美術館のボランティア活動は労働ではなく、美術館が担うべき社会教育の一環です。ボランティアがそれぞれの創意と経験を活かし、仲間どうし協力し、美術館ならではの活動をしていくこと、そして、やがてそれが地域の新しいコミュニティとなることを期待しています。
- ・ボランティア活動がより広がるよう努めていきます。例えば、ギャラリートークボランティアの活動の周知や、小学生美術鑑賞会ボランティアやみんなのアトリエボランティアのように、美術館主体の事業に関わっている活動の充実などを検討していきます。

Ⅱ 美術に対する理解と親しみを深める

③ 調査研究の成果を活かし、利用者の知的欲求を満たす。

【事業計画】

1 展覧会事業

優れた美術品を展示し、感動と思索を得る場を提供します。

(1) 企画展・・・幅広い関心にこたえるため、特定のテーマによる展示を自主事業として、6回開催を予定しています。29年度は開館10周年にあたり、夏には10周年記念として、当館の作品収集方針でもある「海」をテーマにした展覧会を開催します。春にはデンマーク・デザイン展、秋には子どもから大人まで人気のある作家 tupera tupera による絵本展を準備しています。また、他に伊藤久三郎、横須賀ゆかりの画家である青山義雄展を、そして、毎年開催している「児童生徒造形作品展」を予定しています。

i 開館10周年 デンマーク・デザイン

4月28日(金)～6月25日(日)

- ・ヤコブセン、ウエグナーらの輝かしい活躍で知られる、デンマーク・デザイン。その歴史と現在を、デンマーク・デザイン博物館所蔵品をはじめとする約190点の家具、テーブルウェア、照明器具などによりご紹介します。

⇒歴史に残る名作家具を中心に、デンマークのデザインを紹介しました。家具の展示は単調になる傾向があるので、これを補うため、展示室の一部に家のような造作を設けたほか、照明作品を点灯状態で展示するなどして変化をつけました。また、座れる椅子のコーナーを設け、写真撮影ができるスペースとしたところ SNS 上に多くの投稿が見られ、一定の広報効果があったものと見込まれます。観覧者数は19,175人でした。

ii 開館10周年記念 美術でめぐる日本の海

7月8日(土)～8月27日(日)

- ・海は、人とモノが行きかう交流、交易の場であり、造形芸術における創造的イメージの源泉でもありました。本展は、海に関わる様々な造形物を取り上げ、日本人と海の間を多面的に紹介します。

⇒海を描いた作品の他、船絵馬、船会社のポスター、大漁旗など海に関する様々な造形物を展示しました。神奈川県でいまでも唯一大漁旗を作っている三富染物店に展覧会バナーを依頼し、写真撮影コーナー、海に関する絵本、大漁旗柄のぬりえコーナーを設けるなど会場設営を工夫しました。

iii 開館10周年 ぼくとわたしとみんなの tupera tupera 絵本の世界展

9月9日(土)～11月5日(日)

- ・アートユニット tupera tupera 初の大規模な個展を開催します。本展では絵本原画をはじめ、立体作品や映像、インスタレーション作品などを一堂に展示し、ユニークで多彩な世界をご紹介します。

iv 開館 10 周年 没後 40 年 伊藤久三郎展

11 月 18 日（土）～12 月 24 日（日）

- ・当館は伊藤久三郎の初期静物画やシュールレアリスム期、戦後の抽象画、デッサンなど生涯にわたる重要で魅力ある作品を多数所蔵しています。没後 40 年を機に改めて伊藤久三郎という画家の全体像を紹介します。

v 第 70 回児童生徒造形作品展

平成 30 年 1 月 11 日（木）～1 月 29 日（月）

- ・市立の幼、小、中、高、ろう、養護学校 74 校園より選抜された子どもたちが日ごろの授業でつくり上げた平面作品・立体作品など約 3,000 点を展示します。

vi 青山義雄展 きらめく航跡をたどる

2 月 10 日（土）～4 月 15 日（日）

- ・横須賀出身の青山義雄は 1921 年にフランスに渡り、洋画家として活躍しました。叙情性ゆたかな初期作品から、色鮮やかな晩年の風景画まで、70 年以上にわたる画業をふりかえります。

(2) 所蔵品展・谷内六郎《週刊新潮表紙絵》展 …… 年 4 回開催

i 第 1 期所蔵品展 4 月 15 日（土）～ 7 月 9 日（日）

特集：みんなが選んだベスト・コレクション

⇒開館 10 周年を記念し、観覧者による人気投票をもとに、上位に選ばれた作品で構成する展示室を設けました。投票時に寄せられたコメントの一部をパネル化して紹介し、より親近感が持てる、などとして好評を得ました。

ii 第 2 期所蔵品展 7 月 15 日（土）～ 10 月 1 日（日）

特集：ボランティアが選んだ朝井閑右衛門

203gow 編んだ～わーど展

iii 第 3 期所蔵品展 10 月 7 日（土）～ 12 月 17 日（日）

特集：岡本健彦

みんなが選んだ谷内六郎

iv 第 4 期所蔵品展 12 月 23 日（土）～ 平成 30 年 4 月 1 日（日）

特集：横須賀のアーティスト

2 教育普及事業

知的好奇心の育成と充足の機会を提供します。

(1) 展覧会関連の外部講師による講演会の開催 6 回

展覧会を深く理解できるよう、外部講師による講演会を開催します。

- ・開催：土日 定員：各 70 名程度（先着制）

⇒・9 月末までに展覧会関連講演会と、出品作家による絵本の朗読と音楽のコラボイベントを開催しました。

・「美術でめぐる日本の海」展関連講演会、参加者 50 人。

・「tupera tupetra」展では、作家による絵本の朗読と、親交の深い音楽ユニット「ビューティフルハミングバード」によるライブを海の広場で開催、参加者 387 人。

(2) ワークショップの開催 6回

美術への理解を深め、美術館に対して親しみを感じられるよう、多様なテーマによるワークショップを開催します。

- ・ 展覧会に関連したワークショップ 2回
- ・ 大人向けワークショップ 3回
- ・ 開催：土日 定員：各 20 名程度（事前申込制）

⇒今年度はすべての事業が10月以降に実施予定です。

⇒当初計画では、展覧会に関連したワークショップを3回開催する予定でしたが、うち1回を親子向けとしたため2回となりました。

(3) 映画上映会の開催 2回

優れた映像美術に触れ、多様な表現に親しむことのできる映画会（シネマパーティー）を開催します。

- ・ 開催：年2回 定員：30名×2回（事前申込制）

⇒平成30年2月3日（土）・4日（日）に実施予定です。

(4) 学芸員による企画展ギャラリートーク 10回

展覧会の趣旨や見どころ、主要作品の解説など展覧会を深く理解していただくことを目的として開催します。

- ・ 企画展毎に1、2回程度 開催：土日（当日自由参加）

⇒当初計画通り、展覧会ごとに順調にギャラリートークを実施しています。

- ・ 9月末までに3回開催、参加者計75人。

(5) 学芸員による展覧会観覧の案内・解説 随時

学生・グループなど、観覧にあわせ展覧会をより楽しく観覧できるよう要望に応じて、展覧会の案内・解説を行います。

⇒団体への案内解説を要望に応じて行っています。

⇒例年通り、市民大学講座と連携した団体観覧の案内を行っています。今年度は、「青山義雄」展の講座と、学芸員による解説付きの「美術館めぐり」が予定されています。

3 美術図書室運営事業

美術図書等約2万9千冊を揃えた図書室を運営し、利用者サービスをはじめ、美術への興味や理解が深まる場を提供します。

(1) 所蔵図書の充実

一般的な美術書、子ども向けの美術入門書、展覧会に関連する資料を収集し、幅広い層の利用が可能な蔵書の構築に努めます。

- ・ 貴重な美術雑誌の欠号補充（古書購入）と補修をし、利用と保存に適した状態にします。

⇒当初計画通り順調に実施しています（9月末現在受入れ数：図書191冊、カタログ289冊、定期刊行物284冊）。毎日の配架整理時と蔵書点検時に資料状態を確認し、手入れをしています。

(2) 美術に関する情報提供

- ・受入れた資料をデータベースに登録し、来館者が利用する蔵書検索端末に反映させると共に、利用者の閲覧に供します。
- ・展覧会の開催に併せた関連図書や所蔵資料の紹介を行います。

⇒当初計画通り、受入れた資料は速やかにデータベースに登録し、公開しています。展覧会関連資料は特集コーナーに展示するとともに、チラシによる内容紹介を行っています。

【達成目標】 企画展の満足度 80%以上*

【目標設定の理由】

- ・展覧会を企画・実施することは、美術館にとって基本的な活動のひとつであり、中でも、企画展は、波及効果が高く、最も力を注ぐべき事業といえます。こうした認識から、企画展に対する来館者の満足度を、美術館の社会教育機能の高さを示す目安としました。
- ・満足度は来館者へのアンケートによって算出しており、同じ方法の調査を継続的に行っています。またその満足度の内訳は「作品」「観覧料」「配置・見やすさ」「解説・順路」「心的充足」を計っていて、その総合数値を出しています。
- ・満足度の内訳を見ていくと、「観覧料」「解説・順路」の内の順路については、満足度を上げていくことには限界があり、「作品」「配置・見やすさ」そして解説について改善の余地があります。
- ・ここ数年の数値の変化の経緯を総合的に判断し、目標を 80%以上としました。

※ なお、年度ごとの「企画展満足度」を算出する際には、それぞれの企画展の観覧者数の比率を反映させています。企画展Aの観覧者数をA（人）、企画展Aの満足度をa（%）とするとき、年度ごとの満足度（%）は

$$(A a + B b + C c + D d + E e + F f) / (A + B + C + D + E + F)$$

で表します。

	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度 (9 月末現在)
企画展満足度	84.6%	87.0%	88.0%	88.0%

【実施目標】

- ・幅広い興味に対応するようバランスをとりながら、年間 6 回（児童生徒造形作品展を含む）の企画展を開催する。
- ・所蔵品展・谷内六郎展をそれぞれ年間 4 回、テーマをもたせた特集を組みながら開催する。
- ・知的好奇心を満たし、美術への理解を深める教育普及事業を企画・実施する。
- ・美術への興味や理解が深まる美術関連の資料（図書、カタログ等）を収集し、図書室で整理・保管し利用者に公開する。
- ・資料の分類や配架を工夫し、快適に利用できる図書室環境の維持に努める。

- ・主として所蔵作品・資料に関する調査研究を行い、その成果を美術館活動に還元する。

[目標設定の理由]

社会教育機関としての美術館は、常に知的好奇心を満足させる事業を行い、また、そのための環境を整えていかななくてはなりません。美術として扱うべき領域はとても広く、利用者の幅広い興味に応えるためには、所蔵品展以外にもさまざまなテーマを設けた企画展を開催する必要があります。作品の借用が許される期間に限度があることなどを考慮し、1カ月半から2カ月程度を目安とした年間6回の企画展を計画・開催しています。また、コレクションの魅力を紹介するために、所蔵品展及び谷内六郎展をそれぞれ年間4回開催しています。

さらに、横須賀美術館では、美術への親しみ、理解を深めるために、講演会やワークショップなど、年間を通じてさまざまな教育普及事業を展開しています。ここでは、広く一般向けの教育普及事業について、評価の対象とします。

これらの事業を企画・実施するための基礎が、調査研究です。範囲は、所蔵作品に関することを中心に、広く美術に関すること、教育普及に関することを含みます。

④ 学校と連携し、子どもたちへの美術館教育を推進する。

【事業計画】

学校との連携

- 1 中学生のための美術鑑賞教室の開催 14 回程度
中学生向けに鑑賞ガイドを用意し、学校外での美術を学ぶ場となる美術鑑賞教室を夏休み期間中に開催します。
⇒中学生の夏休みの宿題をサポートする目的で、鑑賞ガイドの配布と館内ツアーを含む鑑賞教室を行いました。
⇒8月5日(土)～13日(日)全13回の鑑賞教室には、保護者を含め116人が参加しました。参加者数は期間中の展覧会観覧者数に比例し、例年よりも低調でした(平成28年度参加者数は196人)。鑑賞ガイドの配布状況も同様で、3,000部作成し7月21日(木)から中学生に配布しましたが約900部の残が生じました。
- 2 「美術鑑賞会」の受け入れ(市内全小学校6年生) 46回
市立の全小学校6年生を対象に、ワークシートを用いて美術館における美術鑑賞教育となる鑑賞会を開催します。
⇒年度当初の計画に準じ、順調に受け入れを進めています。
- 3 学校で行われる鑑賞活動の支援 学校の要望があるとき
授業の中で横須賀美術館の所蔵品を活用した授業が実施される際には、学校と連携し、教材活用のサポート、研修、出前授業等を行います。
⇒9月末までで、6件のアートカードの貸し出しを行いました。横浜市の小中学校のほか、大学の教育学部からも問い合わせがあり、関心の高まりがうかがえます。
- 4 職業体験の受け入れ 学校の要望があるとき
子どもたちが美術館での仕事を体験する職業体験の受け入れを行います。
⇒年度当初の計画に準じ、順調に受け入れを進めています。
⇒全14校の受け入れ予定のうち、4校9人の受け入れが終わっています。
- 5 学芸員実習の受け入れ 1回(6日間程度)
学芸員資格取得を目的とする大学生のために、学芸員実習を行います。
⇒8月17日(木)～22日(火)の6日間、8人の大学生を受け入れました。
- 6 教員のためのプログラム 4回程度
学校での鑑賞教育を充実させるため、所蔵品を活用しながら、鑑賞教育を行う教員を対象とした鑑賞会等を行います。
⇒年度当初の計画に準じ、5回の予定のうち3回を終了し、参加者数は計29人となっています。
⇒新規事業であるため、今後に向け、より効果的な教員向け講座のあり方についての意見を参加者から積極的に聞き取るよう努めています。

子どもたちへの美術館教育

1 ワークショップの開催

8回

子どもたちが美術に親しめるよう、子どもまたは親子を対象としたワークショップを開催します。

開催：6月、10月（予定） 定員：1回20名程度（事前申込制）

⇒9月末までのワークショップ開催は4回、参加者計149人。

- ・「デンマーク・デザイン」展関連事業「レゴでつくる人魚姫」24人
- ・「美術でめぐる日本の海」展関連事業「ミニ大漁旗染付体験」親子10組20人
- ・第2期所蔵品展関連事業「ミニミニあみたまくらげをつくろう」66人
- ・親子ワークショップ「みんなでつくろうフェイスブローチ」39人

2 映画上映会の開催

2回

気軽に映画を楽しめるよう屋外での映画会（野外シネマパーティー）を開催します。

開催：8月 定員：なし（当日自由参加）

⇒8月最後の土日に開催される野外上映として、9年目を迎える横須賀美術館の定番イベントです。今年は、「美術でめぐる日本の海」展にちなみ、シャチが登場する映画「フリーウィリー」を上映しました。

⇒8月26日（土）、27日（日）の両日とも好天に恵まれ、参加者数計532人でした。

3 親子ギャラリーツアーの開催

4～5回

親子で美術鑑賞の楽しみ方を知ってもらうための学芸員によるギャラリーツアーを開催します。

⇒開催回数を重ね、美術作品を媒介として親子間で会話を楽しむ方向に重点が置かれるようになっていきます。

⇒9月末までの親子ギャラリーツアーの開催は2回、参加者計7組19人。

4 保育園との連携

20回

市立保育園10園と連携し、おもに年中・年長の児童に向けた鑑賞プログラムを実施します。園ごとに、学芸員による「出前プログラム」と来館時の「美術館ツアー」の2つを行います。

⇒年度当初の計画に準じ、順調に受け入れを進めています。

〔目標設定の理由〕

子どもたちが美術館に親しみを持ち、利用しやすくするため、さまざまな取り組みを行っていますが、その成否は、実際の観覧者数に反映されるはずです。

従来、横須賀美術館では、一定の質を保った美術展を年間通してバランスよく行うこととし、春～秋には、子どもや家族層にも親しみやすい企画展を1つ以上開催しています。平成28年度については、7月～8月に「自然と美術の標本展」を開催し、市立博物館とも連携しながら自然科学と美術の両分野を横断する新しい形の展示を試み、家族層を中心に好評を得ました。

平成29年度も、tupera tuperaの絵本を紹介する展覧会や、触れたり写真を撮ったりして楽しめる203gowの特集展示など、世代を問わず親しみのもてる展示を行うとともに、美術館でなければならない子ども向けの事業を開催することとします。

また、学校連携については、メインとなる小学校鑑賞会に加え、過去4年間では、アートカード開発を通じた教員との共同プロジェクトによっても成果をあげることができました。今後も、学校連携を継続的に発展させていくためには、教員がより参加しやすいよう配慮しながら、授業作りに有益な情報提供を行う場を設けていくことが必要と思われます。こうした視点にもとづき、平成29年度は、教員向け鑑賞会などの新しい工夫を取り入れながら、学校を通じた美術館の活用促進が進むようつとめます。

ただし、数値面で見ると、市全体の14歳以下の人口が減少傾向で、小学生鑑賞会の参加者である市立小学校6年の在籍者数も、開館時と比較して15%ほど下降しています。このようななかで、中学生以下の観覧者数を毎年同じ水準で維持することは容易ではありません。こうした点から、平成29年度の観覧者数の目標は、これまで通りの22,000人とします。

中学生以下の観覧者数 (単位：人)

	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度 (9月末現在)
幼児	9,216	7,202	5,668	3,831
小学生	12,851	12,639	12,414	4,425
中学生	4,003	4,332	4,162	2,375
計	26,070	24,173	22,208	10,631

⇒平成29年度は、9～11月開催の「tupera tupera」展で、幼児や小学校低学年の子どもを含む家族層の来館を見込んでいます。

⇒学校連携の面では、引き続き、質の高い鑑賞支援ができるよう努めていきます。

⇒ワークショップ等の主催事業については、予定通り充実した内容で実施できるよう、引き続き努力していきます。

⇒子どもを対象とした事業全体で、保護者などの大人の割合が高くなる傾向があり、子どもに特化した事業の独自性を維持する工夫が必要になっています。

【実施目標】

- ・学校における造形教育の発表の場として、児童生徒造形作品展を実施する。
- ・学校及び関係機関と緊密に連携し、子どもたちにとって親しみやすい鑑賞の場をつくる。
- ・子どもたちとのコミュニケーションを通じて、美術の意味や価値、美術館の役割などに気づき、考え、楽しみながら学ぶ機会を提供する。
- ・鑑賞と表現の両方を結びつけたプログラムを実施する。
- ・小学生美術鑑賞会を充実させるため学校との連携を強化する。
- ・美術館を活用した鑑賞教育がいっそう充実するよう、アートカードの活用促進をはじめ教員の授業作りに有益な情報提供を積極的に行う。

[目標設定の理由]

美術教育は表現と鑑賞との両輪によってなりたつものですが、多くの学校教育現場では鑑賞の機会に乏しく、表現としての造形教育に偏りがちでした。

近年の学習指導要領では、小・中学校における鑑賞教育がより重視されるようになってきています。平成 23 年度から実施された小学校の新学習指導要領では、鑑賞教育のために地域の美術館を利用することに加え、学校と美術館との連携を図ることが明示されています。美術館には、先生との情報共有を密にし、学校からのニーズに応えることが求められています。

学校教育ではできない、美術館だからこそできることは何かをじゅうぶん意識しながら、鑑賞教室やワークショップ、作家との連携等充実したプログラムを企画、提供することによって、子どもたちが美術に親しみをもつ機会の拡充につとめていきたいと考えています。

⑤ 所蔵作品を充実させ、適切に管理する。

【事業計画】

新たな美術品の収集（寄贈、寄託の受け入れ）を行うとともに、所蔵する美術品約 5,000 点の管理を行います。

1 美術品の収集（購入予算は無、寄贈、寄託の受け入れ）

美術品の収集方針・・・近現代の絵画、版画、彫刻とし、次の基準によります。

- (1) 横須賀・三浦半島にゆかりのある作家の作品
- (2) 横須賀・三浦半島を題材とした作品
- (3) 「海」を描いた作品
- (4) 日本の近現代を概観できる作品
- (5) その他、上記に関連ある国内外の優れた作品

寄贈、寄託の申込のあった作品について、当館の収集方針に合致するかを検討し、作品の来歴や状態を調査します。

収集方針に沿った作品について受入の可否を美術品評価委員会で審議いただき、委員会終了後、収集の承認を受けた作品について受入手続きを行います。

⇒鳥田章三氏親族より鳥田作品 6 点の寄贈申し込みがあり、至急事務手続きを行う必要があったため、美術品評価委員に持ち回り審議を行いました。全委員の承認を得て、作品の寄贈を受けました。今年度に収蔵するその他の作品は、平成 30 年 3 月頃に開催する美術品評価委員会で審議頂きます。

2 所蔵作品の管理（修復・額装及び作品の貸出）

作品の修復・額装について、作品の状態、展示計画などに即して適切に行います。

作品の貸出について、展覧会内容、会期、巡回先など内容を吟味した上で、適切に手続きを行います。

⇒作品の修復・額装について、昨年度寄贈を受けた矢崎千代二作品の修復、企画展で展示予定の伊藤久三郎作品の修復と額装、他館貸出予定作品の新規額装、額改修を行いました。

作品の貸出について、「リアル（写実）のゆくえ」展（平塚市美術館ほか）、萬鉄五郎展（岩手県立美術館ほか）、小茂田青樹展（島根県立美術館）、「カミナリとアート」（群馬県立館林美術館）、藤島武二展（練馬区立美術館ほか）、「昭和抒情・心のふるさと―谷内六郎作品展」（青梅市立美術館）、「日本パステル画事始め展」（目黒区美術館）、「林敬二作品展」（O 美術館）、「独立美術協会 東の雄 吉岡憲 VS 西の雄 小出三郎」（東御市梅野記念絵画館）に貸出しました。

3 環境調査の実施 年 2 回

作品を保管する収蔵庫、保管庫及びその周辺（搬入口、荷受荷解室）について、環境調査を実施します。

⇒5 月 22 日～6 月 22 日、7 月 18 日～8 月 18 日の日程で実施し、概ね良好な結果を得ました。

4 美術品評価委員会の開催 年1回

美術品の収集について、専門的見地から審議いただく美術品評価委員会を開催します。

⇒島田章三作品の寄贈について、美術品評価委員に持ち回り審議を行いました。今年度の委員会は、平成30年3月頃開催予定です。

【達成目標】環境調査の実施（年2回）

美術品評価委員会の開催（年1回）

〔目標設定の理由〕

美術館としての基本的な活動として、作品収集を行っていますが、購入費（基金）が充当されていないため、寄贈に頼っているのが実状です。したがって、数値目標として新規収蔵作品の数量等を設定することは不適切であると考えます。そうしたなかで、収集のための情報収集や調査を継続的に行うことの結果として、受け入れの可否を諮問するための美術品評価委員会を、年に1回開催することを数値目標とします。

また、収蔵庫の環境が作品の保管に適しているかどうか調べる環境調査を、年2回実施することを、あわせて目標とします。

【実施目標】

- ・収集方針に基づき、主体性を持って積極的な収集活動を行う。
- ・適正な保管環境を維持し、そのチェックのため必要な調査を実施する。
- ・計画的に所蔵作品の修復、額装を行う。
- ・所蔵作品がひろく価値を認められ、他の美術館等で開催する企画展などに活用されている。

〔目標設定の理由〕

・すぐれた美術作品をひろく収集し、次世代に伝えてゆくことは、美術館の果たすべき基本的な役割です。そのために、保管のための適切な環境整備と、作品そのものの修復及び保護を行っています。他の機関での展示等の所蔵品の活用は、作品への影響をじゅうぶんに考慮したうえ、可能な範囲で行っています。

Ⅲ 訪れるすべての人にやすらぎの場を提供する

⑥ 利用者にとって心地よい空間、サービスを提供する。

【事業計画】

1 運營業務

受託事業者との連携を図り、利用者にとって心地よいサービスを提供します。

- ・受託事業者との定期的なミーティングの実施による情報共有
(運営事業者連絡会議一月1回、朝礼ー毎日)
⇒計画通りに実施し、連絡不足による問題の解消に努めています。
- ・受託事業者からの業務日報や来館者アンケートに基づく課題の把握
⇒受付スタッフからの日報を受けて、課題や苦情の把握に努めています。
- ・館内巡回によるスタッフ対応等の確認(毎日)
⇒職員による巡回をほぼ毎日実施しています。
- ・レストランと連携した企画展ごとのコラボレーションメニュー提供の継続
⇒継続実施しています。
- ・付帯施設(ショップ・レストラン)に対するアンケート結果等を提供し、協力して改善を図る
⇒月1回の運営事業者会議にてアンケート結果を提供しています。

2 維持管理業務

施設、設備の維持管理に努め、利用者にとって心地よい空間を提供します。

- ・設備担当スタッフ(委託業者)による設備点検(毎日)
⇒継続実施しています。
- ・館内巡回による清掃状況及び施設不具合の確認
⇒継続実施しています。
- ・案内サイン台帳の作成

【達成目標】

- ・館内アメニティ満足度 90%以上
 - ・スタッフ対応の満足度 80%以上
-

[目標設定の理由]

- ・達成目標の適正基準として、それぞれ90%以上、80%以上を設定しました。
この目標値は、過去の実績を参考に、目標を高く持ちつつも達成が決して不可能ではないと思われる数値であり、言い換えれば、目標値の達成イコールかなりの高水準を維持できていると思われる数値としました。
- ・満足度は、来館者アンケートの質問8項目(アクセス、館内印象、静かさ、スタッフ、休憩所、トイレ・授乳室、清潔感、総合)の内、外部要因や展覧会等の企画内容による影響を受けにくい2項目(スタッフ、総合)を指標として使用しています。

- ・館内アメニティ満足度については、来館者アンケートの質問事項「全体的にみて、館内では気持ちよく過ごせた。」に対する満足度（総合満足度）、スタッフ対応の満足度については、来館者アンケートの質問事項「スタッフの対応・案内は適切だった。」に対する満足度を指標としています。

なお、原因を究明し改善に役立てるため、24年度から5段階評価に加え、「特によかったところ、よくなかったところ」を具体的に記述していただく欄を設けています。

	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度 (9 月末現在)
館内アメニティ満足度	92.5%	92.3%	91.7%
スタッフ対応の満足度	85.2%	86.0%	85.8%

【実施目標】

- ・ 建築のイメージを損なわないよう、じゅうぶんなメンテナンス、館内清掃を行う。
- ・ 受託事業者と協力して、ホスピタリティのある来館者サービスを実践する。
- ・ 運営事業者と協力して、付帯施設（レストラン及びミュージアムショップ）を来館者ニーズに応じて運営する。

〔目標設定の理由〕

- ・ 横須賀美術館が来館者に好ましい印象を持たれている大きな要因の一つは、周囲の豊かな自然と、その風景と調和したユニークな建物です。しかし、海のそばに立地しているため、強い風雨にさらされることも多く、また塩害などによる老朽化が進んでいることも事実です。建築の魅力をいつまでも来館者に伝えていくためには、適切なメンテナンス、清掃を継続していくことが重要です。
- ・ また、スタッフの対応によって、美術館に対する印象は大きく左右されますので、受付・展示監視スタッフ等の受託事業者との緊密な連携を図り、来館者の立場に立ったより良い接客を目指します。
- ・ 美術館を訪れた際の買い物や食事も、来館者の大きな楽しみです。レストラン及びミュージアムショップと連携し、来館者のニーズに即応したサービスの提供がなされるよう、知恵を出し合い、工夫を重ねていきます。

⑦ すべての人にとって利用しやすい環境を整える。

【事業計画】

- 1 福祉活動講演会の開催 1回
さわれる彫刻や絵画など、誰もが美術に親しむことができるさまざまな研究や事例を紹介していく講演会を開催します。大学等、関連機関への広報を行います。
- 2 福祉関連イベントの開催 2回
障害の有無に関係なく、誰もが美術や表現活動に親しむことができる福祉関連イベント（ワークショップやパフォーマンス）を開催します。
⇒9月24日に、自分の体や楽器を使いながら、「大きな音」「小さな音」、「言葉を音にする」や、参加者全員で簡単なルールに沿ってゲーム感覚で音を出すワークショップを開催した。（福祉ワークショップ サンガツ ワークショップ「Catch and Throw」vol. 4@横須賀美術館）
⇒9月30日に、視覚障害の有無に関わらず、ともに楽しむことができる「鑑賞」と「創作」の2部構成で、第1部では、谷内六郎作品を言葉で鑑賞し、第2部では、造形作家 Unicoco（ゆにここ）を講師に迎え、さまざまな素材の質感を楽しみながら創作を行った。（「話して・触れて・つくって楽しむ美術館」）
- 3 障害児向けワークショップ「みんなのアトリエ」の開催 12回
障害のある子どもたちを対象に、身近にある材料で創作を体験するワークショップを開催します。年度末に、ワークショップ室において一年間の成果を展示します（共同制作した大型作品の展示）。
⇒6回実施し、利用者は延べ89名となっています。
- 4 託児サービスの実施 16回
1歳～未就学児を対象に、展覧会の観覧やワークショップ等に参加される保護者向け、託児サービスを実施します。
- 5 未就学児ワークショップの実施 1回
就学前の子どもたちが美術に親しめるようなワークショップを開催します。
⇒平成30年3月3日（土）・4日（日）開催予定
- 6 他館との連携（MULPA） シンポジウム1回、ワークショップ1回
近隣美術館（神奈川県立近代美術館、平塚市美術館、茅ヶ崎市美術館）や芸術活動支援団体と連携し、障害者や定住外国人等の美術館利用に関するシンポジウムを実施し、2020年を目標とした事業計画をすすめ、実施していきます。
⇒7月8日にキックオフイベントとして、フォーラム「みんなで“まなびほぐす”美術館」（於：関東学院大学関内メディアセンター）を開催した。3人のゲストによるオープニングトークと、参加者同士が意見交換をするワールドカフェの2部構成とし、障害の種類や有無、国籍などに関わらず「みんなが楽しめるアートプログラム、美術館」について探求した。学生ボランティアをはじめ参加者数は133名（一般参加者54名）。ワークショップについては、実施時期も含め検討中。

【達成目標】 福祉関連事業への参加者数延べ 420 人以上

〔目標設定の理由〕

- ・福祉関連の事業は、内容の充実を図るために対象や参加人数を限定する場合があります、そうした場合は参加者数が減ることとなります。しかし、限定したからこそ、対象の特徴に応じたプログラムの計画実施が可能となり、普段美術館を利用しにくい方でも参加することができる事業を行うことができます。
- ・上記のような事情により、福祉関連事業は、その年の事業の性格次第で参加者数の増減が大きくなりがちです。そこで、過去の事業内容と参加者数、平成 29 年度の事業内容を考慮し、420 人以上を平成 29 年度の目標値としました。

福祉関連事業への参加者数

(単位：人)

	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度 (9 月末現在)
福祉関連講演会	31	28	27	未
福祉関連ワークショップ	50	45	84 ^{※1}	37
福祉関連パフォーマンス	151			
みんなのアトリエ (障害児者向けワークショップ)	191	189	192	89
託児	34	25	19	13
未就学児ワークショップ	39	31	39	未
他館連携(MULPA)	—	—	—	133 ^{※2}
計	496	318	361	272

- ※1 27 年度までは、福祉ワークショップ 1 回、福祉パフォーマンス 1 回と分けていたが、28 年度より、「福祉ワークショップもしくはパフォーマンスを 2 回開催する」こととし、目標数を合算しました。
- ※2 他館連携は平成 29 年度から 32 年度までの実施とし、33 年度以降については、一部事業を継続していくか、他事業と合わせて検討する予定です。

【実施目標】

- ・年齢や障害の有無などにかかわらず、美術に親んでもらう（環境づくりの）ための各種事業を行う。
- ・必要に応じて、対話鑑賞等の人的サポートを実践する。
- ・託児サービスを積極的に周知していく。

〔目標設定の理由〕

- ・各種事業を通じて、美術館が健常者のみの施設ではないこと、障害の有無に関わらず美術を楽しむこと、また各年齢や状況に応じた楽しみ方があることを伝えていきたいと考えています。

- ・設備や什器を新規に導入することは難しいため、対話鑑賞のような人的対応によるプログラムを充実させることによって、福祉の充実につなげたいと考えています。
- ・障害者等のニーズを、職員が実践を通して知ることによって、次年度以降の取り組みや長期計画に活かしていきたいと考えています。
- ・子どもをもつ方が安心して美術館事業に参加できるようにするためには、託児サービスについても広く知っていただくことが必要と考えています。

⑧ 事業の質を担保しながら、経営的な視点をもって、効率的に運営・管理する。

【事業計画】

- ・エネルギーの消費管理を行い、省エネ対策を推進します。
⇒空調自動制御システムの改修を実施中。より効率的なエネルギー管理を行います。
- ・四半期毎に消費エネルギーの数値等を職員全員に周知し、コスト意識の啓発を図ります。

【達成目標】 電気使用量、水道使用量、事務用紙使用枚数を直近3年間の平均値を目安とする。

[目標設定の理由]

- ・電気料、水道使用料は、美術館の総事業費の約2割弱を占めることから、達成目標を定め管理していく必要があります。
- ・職員が努力した効果を目に見えて感じることができるよう、電気使用量、水道使用量、事務用紙使用枚数を、直近3年間（H26～H28）の平均値を目安・目標とします。

	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度 (目標)
総電気使用量(kwh)	2,582,595	2,540,390	2,441,219	2,521,000
水道使用量(m ³)	4,077	4,396	4,394	4,280
事務用紙使用枚数 (枚)	216,104	211,250	253,550	226,900

【実施目標】 職員全員が費用対効果を常に意識し、事業に取り組む。

[目標設定の理由]

- ・サービスを低下させず経費を削減しスリムな運営体制を目指すためには、職員全員が費用対効果を常に意識した行動が必須であると考え、実施目標としました。